

県教委ニュース

発行
新潟県教育委員会
平成18年12月4日
第19号

緊急全県教育長会議及び緊急全県義務教育諸学校長会議を開催 ～平成18年11月17日 於新潟市新津地区市民会館～

平成18年11月14日に発生した中学生の自殺事故を受けて、県教育委員会では、11月17日に緊急全県教育長会議及び緊急全県義務教育諸学校長会議を開催しました。会議冒頭に、亡くなった生徒に黙とうを捧げた後、武藤教育長、池山義務教育課長が、今後の対応について話をしました。続いて、新潟大学教育人間科学部助教授神村栄一様から「子どものサインを見逃さない」と題する講話をいただきました。概要は次のとおりです。

1 今後の対応について

新潟県教育委員会教育長 武藤克己

本日は、御多用のところ、御出席いただき、ありがとうございます。

今週火曜日、11月14日に神林村の中学生が自らの命を絶つという痛ましい事故が発生しました。亡くなられた生徒の御冥福をお祈り申し上げるとともに、御家族に対して心からお悔やみを申し上げます。

昨今、全国的に自殺事故が多発したことから、10月25日には、命の大切さ、いじめ問題等に対する今後の対応について「緊急会議」を開催して取組を始めたところであり、今回の事故には大きな衝撃を受けております。

皆様をお願いしたいことは、私どもも全力で取り組めますが、皆様方も真しな気持ちで今まで以上に徹底した取組をお願いしたいということです。

今回の自殺の原因は調査中であり、不明ですが、いじめである可能性も残されています。自殺については防ぎ切れないケースもあるかもしれませんが、いじめによる自殺は我々が全力で取り組めば、防ぐことができると思います。したがって、いじめによる自殺は二度と絶対に起こしてはなりません。

学校に戻ったら、子どもたちに、失敗は取り返せても失われた命は二度と取り返せないことをお話してください。人生には山も谷もあります。今は谷で耐え難くとも、生きてさえいれば山に登ることもできるのだなど、命の大切さについて子どもたちに十分説明し、また、話し合ってもらいたいと思います。

私からは、いじめに関して2点お話ししたいと思います。



いじめの定義は様々ありますが、子どもがいじめと認識すれば、それはいじめです。被害者である子どもの立場に立って判断してほしいと思います。小中学生は多感な時期にあり、精神的にも発達途上です。タフな子も繊細な子もいます。先生方にとってこの位は大丈夫と思えることでも、子どもにとっては耐えられないことがあるかもしれません。いじめに該当するかどうかでなく、その子がどう考えるかを大切にしてお応じてほしいと思います。アンテナを高くして、普段と違う落ち込んでいる様子があれば、積極的にアプローチし、ケアをしてほしいと思います。

先日の新聞報道の、NPOが行った神奈川県の小中高生13,000人に対するいじめの認識についてのアンケートによりますと、「いじめに関していじめる人が悪いか」という問いに小学生の65%が「悪い」と答えましたが、中高生では40%しかいません。また、「いじめられてもしかたがない人がいるか」という問いに「いない」と答えた小学生は約5割、中高

生は4割前後です。一概には言えませんが、中高生の半分以上はいじめられるほうにも問題がある、けんか両成敗的な考えでいることが分かります。

子どもがこのような認識をもっているうちは、いじめはなくなりません。いじめられる側には障害をもつ子、精神的にやさしく弱い子などのいわゆる弱者ばかりでなく、ある程度、非がある子もいるかもしれません。しかし、だからといって、それがいじめられてよい理由にならないことを子どもに教える必要があります。理由はどうあれ、いじめは卑きょうな行為であること、絶対に許せない行為であることを子どもに分かるように話し、理解させてほしいと思います。

このところ、いじめ自殺に限らず、高校の未履修等の問題があり、学校や教育委員会へ

の批判が寄せられています。皆様が今まで頑張ってきたことは十分に承知しておりますし、我々も頑張ってきたと自負しています。しかし、結果としてこのようなことが起こってしまったことは反省しなければなりません。批判は謙虚に受け止めるべきだと思います。

これだけ批判が続くと、気持ちが落ち込み、先生方が自信をなくすのではないかと心配しています。しかし、批判が多いということは、それだけ、県民の皆様が教育に関心を寄せ、期待も大きいのだと前向きに受け止め、精一杯信頼回復に向けて取り組んでいただきたいと思います。県教育委員会も組織をあげてバックアップしていきます。

今回のことを契機にいじめをなくす取組に全力で取り組んでいただくよう、改めて皆様に強くお願いして私の話を終わります。

2 今後の具体的な対応について

新潟県教育庁義務教育課長 池山康栄

教育に携わる者としての責務を全うし、二度とこのような痛ましい事故が起こることのないよう、次の6点について説明しました。

- (1) 「命の大切さ」についての根気強い指導の繰り返し
- (2) きめ細かな児童生徒のみとりと対応
- (3) 「いじめ防止学習プログラム」「中1ギャップ解消プログラム」の自校プランに基づく着実な実践
- (4) 家庭・保護者との連携の強化
- (5) 悩み、困りごとの相談に関する情報の周知
- (6) 県教育委員会としての対応について

具体的な説明内容は、会議終了後に配付した資料に記載されていますので、割愛します。なお、会議当日に配布した「いじめ相談機関」の一覧表を巻末に添付します。

3 講話「子どもたちの心のサインを見逃さないために」

新潟大学教育人間科学部助教授 神村栄一 様

神村様から、専門の臨床心理学の立場及びスクールカウンセラーの経験から、児童生徒が自ら命を絶つということについての情報といじめについて感じていらっしゃるということについて、資料に沿って次のとおりお話がありました。

(1) 子どもたちの心のサイン

改めて言うまでもないことですが、資料(1)のとおり、サインにもいろいろあります。サインとは、子どもの反応の何かがこれまでとは違う方向に変化することです。それがどういう変化であれ、急激な変化は注意をして見守る必要があります。

児童生徒の休みが増え出す、早退が目立

つということは、比較的、確認しやすいサインと言えます。また、声の調子とか、おしゃべりな子があまりしゃべらなくなる、食欲(お昼の給食の時間、普段は真っ先に残り物を取りに来るような子がそうではなくなる)などの変化をとらえていかねばなりません。

野球ではキャッチャーがピッチャーに意

図的に意味のある信号を出します。ここでとりあげているサインというのは必ずしも意図があるサインではないので、周囲が積極的にくみ取ることが必要になってきます。

いじめというのは対人関係トラブルです。これは、なかなかなくなるものではないので、人付き合い、仲間関係などの変化をよく見るのが重要になってきます。

中学生はもちろん、小学校でも、教職員が子どもたちの休み時間の過ごし方の変化をとらえるのは非常に難しいと言えます。先生方にはいろいろなお仕事があるとは思いますが、今、事態は緊急ですので、なるべく長い間、教室や校内にさりげなく「漂う」という意識をもっていたらとありがたいと思います。

資料(1) 子どもたちの心のサイン

サイン：子どもの反応の何かが一定方向に変化すること

欠席・早退・遅刻の変化

参加状況の変化

(課題や活動への) 取組・姿勢の変化

動作のパターン、速さの変化

声の調子、大きさ、発話の頻度の変化

体調の変化、食欲、睡眠、肌荒れ、声、目

表情の変化(顔の向き、視線、動き)

交友関係、仲間関係の変化

対教師関係、対家族関係の変化

学業成績の変化

自由に選べる活動(休み時間、休日)の変化

服装、身なりの変化

作品、作文などの提出、及び内容の変化

大切にしていたモノへの扱い、執着の変化

資料(1)「子どもたちの心のサイン」の13、14項目目は、いじめや自殺に関連して特に注意が必要です。文章として表れるもの、作文とか連絡ノート等を書いてくる内容、書き方、書きぶりにサインが出ていると言われます。

また、大人も同様ですが、死を意識しているとき、自分が大切にしているモノや関係、時間などへのこだわりが急速に薄れてくるといった変化があります。痛ましい事故が起こる都度、あれがサインであったと、後々、気が付くことがあります。これは先生方だけを見ていくのは非常に大変ですの

で、機会を設けて、保護者の方にもお伝えいただくのがよろしいかと思います。

一般に、こうした児童生徒の変化をよく見ることに長けているスタッフは、やはり、保健室の先生、養護教諭の方です。むしろ、保健室の先生以外の方がダメということではありません。

今、事態は緊急ですので、朝の先生方のミーティング等で、保健室の先生が児童生徒の気になる変化について話す機会をもっといただきたいと思います。これは、「保健室の先生はこういうところに目をつけているのか、なるほどな」と、全ての先生方にとって、サインをとらえる力を伸ばす良い研修になります。このようなミニ研修の講師となるスタッフは学校の中にいらっしゃるもので、そうした人材を活用するのも良いと思います。子どもたちのサインに敏感になるには、男女の実際の性別にかかわらず、母性的資質が有効でしょう。

(2) 自殺のメカニズムと危険性

いろいろなメディアでいじめが原因と考えられる自殺の報道が増えてきた先月ころから、私は、日本中で緊急な事態が生じていると感じておりました。そして、残念なことに日本中でこうした事態になってしまいました。自殺というのは、子どもだけでなく大人も、資料(3)「群発自殺」という現象につながります。有名な方、タレント、映画監督、作家などの方の自殺がありますと、その影響を受けて、一時的に自殺の発生件数が増えるということはよく知られていることです。

自殺のメカニズムは難しいのですが、自殺を思い立って実行するには、相当なエネルギーが必要であると考えられます。自殺というのは、生きていく元気がなくなるから自殺するのではないかと考える方もいます。しかし、年齢層や背景にもよりますが、特に、若い方の自殺に関しては、相当なエネルギーが働いていると考えた方が良さそうだと言われています。そのエネルギーは、資料(2)のとおり、3つに分類できます。

このようなエネルギーが強く組み合わさって、相当なエネルギーが蓄積された結果として自殺が行われます。の恥に関しては、日本人には恥の文化がありますので、その辺が日本という国の自殺率の高さ、先進国中で高い方であることに関係しているのではないのでしょうか。恥をさらすのであれば自らの死をもって...ということ、妙に美

資料(2) 自殺のメカニズムと危険性

「自殺 = 弱い」ではない、自殺には相当のエネルギーが必要

恐怖(逃れたい、生きてられない)

エネルギー

怒り(恨み、あてつけ、苦しませたい) エネルギー

恥(自らをさらせない、面目ない)

エネルギー

「自殺 = うつ」というが、「うつ」にもさまざま

慢性的なうつ vs 急性のうつ

エネルギーの枯渇したうつ

vs エネルギーの高まったうつ

個性や気質に根ざすうつ

vs 環境・出来事の影響によるうつ

「うつ」には、単純な出来事そのものではなく、その「受け止め方」が大きく左右する、と考えるのが医学・心理学の常識。

化してとらえる傾向があり、日本の自殺率の高さに影響しているという考え方もあります。

自殺に関しては、心がしんどくなっているうつという状態と関係しているとも言われています。確かにそうです。しかし、うつにも様々な側面や状態があるので、若くて元気な方が自殺で亡くなった場合などは、非常に急性なうつであるとしが言いようがありません。

結局のところ、自殺に対する完全な予測は難しいのです。単純に、こういうことがあれば人は自殺するとは言えません。本人がどういうタイミングで、どういう状況になって、そこでどういう出来事をどうとらえるかによって、どんどん心がしんどくなっていくこととなりますので、予測は難しいと言えます。

私は普段からいくつかの中学校でカウンセラーとして活動させていただいているのですが、カウンセラー仲間と集まり、自殺を少しでも思いとどまってもらうようにどんなメッセージが出せるかを考え、話し合っているところです。死について語るのは、相手の状況、発達段階によるところもあるので、カウンセラーである私どもにとっても、非常に難しいところです。

やはり、あまり死を美化しすぎないことも重要であると思います。多くの宗教では、自ら命を絶つということは罪であるとして

おり、そのあたりで抑制をかけているのです。日本の文化においては、自ら命を絶つ、それを選ぶことを妙に美化してしまう、あるいはそうした不幸な出来事を語る際に「とても残念なことである」と言い切ることがはばかれる雰囲気があります。また、子どもたちは死後の世界があると考える状況もあり、先日のテレビ番組では小学生の6割は死んでも次の生命があると思っているとの放送がありました。死後の世界を当たり前前に思いこんでいる傾向が強い子どもたちと、我々大人の間には、死のとらえ方において乖離があるのです。

私たちが積極的なメッセージを出すにあたり、亡くなった方は本当につらかったという部分に加え、自らによる死というのはあってはならない、美化すべきではないというメッセージを盛り込めたらよいと思っています。自殺は多くの人にショックを与えますが、それによって世の中を大きく変えることはできません。むろん、自殺を繰り返す人も一定の割合でおられますが、自殺を試みて幸いに助かった人の中では、あの時死ななくて良かったと感じている場合が多いのです。こんなこともとりあげながら積極的に自殺の抑制に作用する考え方を紹介できたらよいのですが。

(3) 群発自殺

資料(3) 群発自殺

タレント、有名人の自殺、あるいは、同じ状況にある者の自殺などの報道に影響される。特に、詳細な記録、あるいは、リアルな映像(実写も、イメージ映像も)は、刺激が強いといわれる。

しかしながら、実際に報道統制は難しい。

したがって、

自殺報道が多くなっている状況では、影響を受けそうな層を支援する者が、「緊急事態」と認識するしかない。

一番重要で、一番単純な対策は、できるだけ一人にしないこと、「一人外出」に最大限の注意を払うこと。

次に、資料(3)「群発自殺」です。これを防ぐにはどうしたらよいか。「報道規制」という手段もあり得るのですが、別の意味で問題となります。現在はテレビ等で自重されている節がありますが、根本的には難しい。自殺関連報道が増えてきた場合、

影響を受けそうな世代にかかわる役割にある方においては、黄色信号、赤信号が点滅している状況ととらえ、対応するしかないと思っています。

今は警戒態勢と言わざるを得ません。

具体的に何をすべきかという、危険のあるお子さんを一人にしないことです。休みの日とか夕方、「気を付けて出かけておいで」と一人で家から出すことをせず、「買い物だったらお父さんと車で一緒に行くか」等の配慮をしなければならない事態にあると思います。

(4) 群発自殺に影響されそうな子

資料(4) 群発自殺に影響されそうな子

継続的に「いじめ」らしきことを受け、自尊心を低めている子

何らかのうらみを、周囲に抱いていそうな子

(たとえそれが、本人の被害妄想的なうらみであっても)

普段から、思い詰める傾向にある子

(ささいなことをずっと心にもち続ける、心の中で怒りや悲しみ、恐怖などが増幅しやすい傾向、気晴らしが下手)

資料(4)のとおり、普段から自尊心を低めている子、解消しきれない、許せない又は許すことが上手にできない子(生きていることは許して許されることの連続なのだが)、普段から思い詰める、執着気質(まじめできちんとしないと気が済まない性格)、熱い、負けず嫌い、水に流すのが苦手、気晴らしができない、といった子は危険な部分があると思っています。

頑張っている良い子は執着気質であり、性格特性上、裏表の関係にあります。部活で一生懸命に頑張っている子は、チームメイトのミス許せない。また、自分がミスをした場合、尾を引いて、上手く力を出せない。こんなことを言うと、たくさんの子が心配の対象となってしまいますが、「良い性格」というのはある意味では危険なのです。ちゃらんぼらんで「困った性格」が幸いすることがあります。児童生徒だけでなく、先生方であってもそうですが、「熱いタイプ」というのは、一つのリスクになるということなのです。

(5) いじめの三大メカニズム

いじめには、いろいろなたらえ方があり

ます。そのことがいじめかどうかととらえるのはなかなか難しい問題であり、その判定にエネルギーを使うのであれば、他にやるべきことがあるのではないかと思います。

先ほど、教育長が「いじめかどうかよりも、そこで苦しんでいる子がいれば、まず、その苦しみに対応する」旨をお話しされましたが、それが原則であろうと思います。実際の医療現場では原因やタイプをカテゴライズする必要がありますが、目の前で痛がっている人がいれば、病気なのか病気でないのかではなく、とりあえず痛みを和らげることを考え、その上で将来的な予防措置をとることが必要となります。

いじめというのは「対人関係トラブル」です。これは大人でも子どもでも起こります。

私は、無人島に流れ着いたのが2人であれば対人関係トラブルは起きないが、3人で流れ着くと、必ずいじめのようなことが起きると授業で話しています。2人だけであれば「お互いに頑張ろう」となるのですが、3人となると「この人は食料を調達できない」とか「さぼっている」など、必ずいじめのようなことが起こってくるのが、残念ながら人間であり、人間社会であります。

まず、いじめのメカニズムを理解するようお願いいたします。人が人を攻撃するパターンは資料(5)のとおり3つあります。

資料(5) いじめの三大メカニズム

実質的なメリットがあるので。

・ちくりそうにない子が危険。つまり、弱い子、遠慮する子

・妙にプライドの高い子、周囲との関係が薄い子

・基本的信頼感の低い子

何らかの反感をかう特徴が目につくので。

・よくも悪くも目立つ子、刺激的な言動のある子、場の空気を読むのが苦手な子、グループで周囲に不満を残しそうな特性のある子

集団の中の盛り上がりによって。

・やや予測困難、集団における責任の分散に注意、「この子はいじられキャラだからOK」が危険

は実質的なメリットを得ようと、ちくりそうにない人をターゲットにすることで。いわゆるカツあげ、つまり金品を脅し

取る、子分(パシリ)にする、プロレス練習の相手にする等の例があります。こういう場合、ターゲットになる子は、「ちくらない(大人に言わない)」子であることが重要となります。誰がちくる子で誰がちくらない子かを見分けるのは単純な弱さだけではないので難しいのですが、「常習いじめっ子」は、ちくりそうにない子を上手に見つけます。したがって、このメカニズムを抑制するために先生方をお願いしたいことは、子どもたちよりも早く、ちくれない子を見つけ出してガードし、できればその子がちくりやすくなるような環境を整えることです。資料(5)にはプライドが高い、周囲との関係が薄い等ありますが、どうい子がちくりそうにないかを見分けるのは、普通は難しいことです。

ちくりそうにない子を見つけ出す具体的な方法があります。先生方の中に「実は昔、いじめっ子でした」という人が必ず数人はいるはずで、そういう先生に名乗り出ただいて(冗談ではなく、本当にやってもらった方がよいと思うのですが)、どの子がターゲットになりやすいか講義してもらうのです。かつてのいじめっ子としてのセンスを現在の仕事に活かすのです。一般に、いじめの予防的対応が上手な先生は、以前いじめっ子だったか、いじめられっ子だったかのどちらかです。幸いにしていじめの経験がなかった若い先生方は、対応が苦手なことがあるので、校内で研修していただくことは重要です。

「いじめっ子だった先生」と言っても手を挙げないかもしれませんが、「あなたの力が必要なんだ」と言えば恐る恐る手を挙げていただけます。少しおだてると、得意になってとうとうとしゃべり出すこともあるのでそこは校長先生に抑えていただいて、校内研修の講師として活躍していただければどうでしょうか。いじめをなくすのは簡単ではありません。奇麗事をただ繰り返すのではなく、人間の心の根底にある問題なので、その位、踏み込んでいただかないとなかなか難しいかなと思っています。

は気に入らない特徴が目につく子をターゲットとすることです。あの子は危険(いじめられる)という様子を見受けられると思います。注意していただきたいのですが、これは、いじめられる方に原因があるという意見をサポートするものではありません。あくまで、そう見える(主観)ということ。あの子はこういう気に入らないとこ

ろ、ひどいところがある、みんなにマイナスをもたらす、だからいじめるというメカニズムです。いわゆるリンチであります。そういうのは率直なところ、どこの職場集団、町内会でも起こりうることです。

まったく本人に原因も責任も悪いところもないのに、そう見なされることもあります。例えば、都会から転校してきて言葉が奇麗だから気に入らないといったケースなどです。子どもはどうしても、目立つ存在の子には心に大きな痛みを体験してもらわないと困るという感情をもつ場合があるので、子ども同士の関係に対して感度を高くして見ていただきたいと思います。このに関しては、意外なことに、男性よりも女性の先生に予測の適性があることが多いと思われま。感度が高い先生からご指導いただくことが重要であると思います。

は集団の中の盛り上がりが行きすぎるケースです。いじめに教員がかかわってしまうことがしばしば起こりますが、概してこうした先生は人気者で、子どもたちの中に良く入っているというケースが多いです。このようなケースでは、盛り上がりかいつの間にかいじめになってしまい、ターゲットとなっている子が傷ついていることに気が付きにくい状況に発展します。若い人の言葉で言うと「いじられキャラ」だからということで、クラスの盛り上がりが必要な子とされるのです。

よそから見れば「一体何をやっているのか」となるのですが、当事者としてその場にいると、ひどいことをやっている感覚が大人でもついついなくなってしまうことがあるので、気を付ける必要があります。

本日は、長々と話をしてきました。

県の中1ギャップ解消に向けた取組等による成果も上がっており、こうした取組は意義のあることと思っています。反面、こうしたことで、先生方を更に忙しくさせてしまっているかなと心苦しいところもありますが、学生の支援ボランティア、地域の方、保護者の方など、学校の中で特別な役割があるわけではなくさまよっていただける「ウロウロスタッフ」などを活用してはいかがでしょうか。子どもたちとかかわってもらい、遊んでくれたりするようなスタッフを学校の中に受け入れていただくと、やんわりとした抑制になるのではないのでしょうか。最初は子どもたちも警戒するかもしれませんが、子どもたちは適応しますし、

慣れてしまえば警戒心も薄らぎます。各学校における「ウロウロスタッフ」の活用は、結果的にやんわりとしたいじめの抑止になるのではないかなと思っています。

(6) まとめと緊急提案

資料(6) まとめと緊急提案

いじめも自殺も、いつ発生するかわからない。

(わかりやすく言えば、なくなる!)

いじめ、自殺それぞれ、いろいろなメカニズムがある。

教師の個人的経験の違いで、見逃しやすいものがある。

相互シミュレーション

ある学校、学年、クラスで、どの子がどのような危険性をもつか。いじめ被害や加害、あるいは、群発自殺の影響を受けそうか。担任単独ではなく、学年単位、学校単位で。

最後に「まとめと緊急提案」です。

いじめや自殺はなくなる瞬間はあっても、次の瞬間に別のいじめが起きているので結果として「なくなる」ということになると言えます。もちろん、いじめをなくすための努力の重要性を認識した上での発言ですが、とにかく、なくなってもいつまた発生するかということの大前提とする必要があります。

自殺にもいじめにもいくつかのパターンやメカニズムがありますので、現場感覚で研修することが必要かと思えます。保健室の先生から子どものサインをお話ししてもらったり、先ほど冗談半分で言いましたがいじめっ子側の残酷な心の働きを本音で語ってもらうことも良いのではないかと思います。

先生方一人一人にいろいろな個性や経験があります。いじめとか自殺に対しては、しばしばそうした個人的な経験の中で、見やすかったり見にくかったり、連想が働きやすかったり働きにくかったりします。

大学の学生さんの評価では私がするいじめの話は「他の話よりもおもしろい」と言っていたいております。単純に喜んでいましたが、思うにそれは、私自身の中に、たっぷりのいじめっ子だった経験と、たっぷりのいじめられっ子だった経験が詰まっているからだと思えます。個人的な経験によって、対応のセンス、上手下手などが生じる

ものなので、その点を先生方が上手く活かしていただけたらなと思います。その際、いろいろな考え方が必要となりますので、こうすべきだという堅い議論ではなく、こういうこともあるのか、こんな心理があるのかなど、レポートリーを広げていただければと思います。繰り返しますが、心の中は、奇麗事ばかり、耳に心地よい話ばかりではダメです。

の「相互シミュレーション」はそれを前提としています。この学校、クラスであえて言うところの子が心配なのか、執着気質や熱いモノをもっているのだけど許すことが難しいタイプはどの子かなど、シミュレーションするのも必要かと思えます。

災害で火事が起こったら消防自動車は何分で駆けつけられるか、大雨が降ったら1時間に何百ミリまでこの川は大丈夫なのだろうかなど、最悪の場合を想定して対策をとるのは、公務員の基本姿勢だと思います。もうあんなひどい地震は二度とないだろうと思いたくなるのも、あんなひどいいじめは滅多に起こらないだろうと思うのも、同じです。美しさも厳しさも残酷さも併せ持っているのが、我々の生きている地球の自然であり、我々の心です。いじめや自殺もなくなればよいし、学校や地域での「いじめ0(ゼロ)作戦」は支援したいのですが、現実はどうも難しいと言わざるを得ません。こうした考えに基づき、対応をとっていくということが必要かと思えます。

最後をお願いしたいことがあります。先生方、いろいろたいへんなことがある中でうつむき加減というか、つつい下を向きがちになる先生方も少なくないかと思いますが、うつむき加減では、子どものサインをよく見ることもできません。たいへんな問題が多発する中で、お忙しいことと思いますが、先生方には前向きな気持ちで対応を進めていただければと思ひまして余計なことを申し上げ、終わりとさせていただきます。

編集

新潟県教育庁総務課企画統計係

TEL 025-280-5587

FAX 025-285-3766

E-mail t5000105@mail.pref.niigata.jp

無断転載を禁ず

法務局のいじめ相談

- ・いじめ、体罰、虐待、差別など人権に関する問題全般の相談機関です。
- ・人権擁護委員、法務局職員が、お話を聞きします。
- ・相談内容によっては、人権侵害事件としての調査を行います。

電話・面接・文書相談 月～金曜日 8:30～17:00
 子どもの人権110番は月～金曜日の 8:30～17:00

新潟地方法務局 025-222-1563	柏崎支局 0257-23-5226
新津支局 0250-22-0547	六日町支局 025-772-3742
三条支局 0256-33-1374	上越支局 025-525-4133
新発田支局 0254-24-7101	糸魚川支局 025-552-0356
村上支局 0254-53-2390	佐渡支局 0259-74-2049
長岡支局 0258-33-6901	子どもの人権110番 0570-070-110
十日町支局 0257-52-2575	女性の人権ホットライン 0570-070-810



一人で悩んでいないで
 相談してみませんか。

警察のいじめ相談

- ・非行やいじめなどの、あらゆる少年問題に関する相談を受けます。
- ・少年警察補導員や警察官がお話を聞きします。
- ・サポートセンターは8:30～17:15(土、日、休日を除く)
- ・警察署は9:00～17:45(土、日、休日を除く)

新潟少年サポートセンター 025-285-4970
長岡少年サポートセンター 0258-36-4970
上越少年サポートセンター 025-526-4970
新潟東警察署 025-249-0110
新潟中央警察署 025-225-0110
新潟西警察署 025-260-0110
新潟南警察署 025-382-0110
豊栄警察署 025-386-0110
佐渡西警察署 0259-74-0110
佐渡東警察署 0259-27-0110
新発田警察署 0254-23-0110
村上警察署 0254-52-0110
胎内警察署 0254-43-0110
阿賀野警察署 0250-63-0110
津川警察署 0254-92-0110
新泉警察署 0250-42-0110
新潟警察署 0250-23-0110

三条警察署 0256-33-0110
白根警察署 025-373-0110
巻警察署 0256-72-0110
燕警察署 0256-66-0110
加茂警察署 0256-52-0110
見附警察署 0258-63-0110
長岡警察署 0258-38-0110
与板警察署 0258-72-0110
小千谷警察署 0258-83-0110
小出警察署 025-793-0110
南魚沼警察署 025-770-0110
十日町警察署 025-752-0110
柏崎警察署 0257-21-0110
上越警察署 025-521-0110
妙高警察署 0255-72-0110
糸魚川警察署 025-552-0110

平成18年度

十二月二十八日まで毎日九時～二十四時まで相談できます。

「教育事務所のいじめ相談」「県立教育センターのいじめ相談」は

ひとりで悩まないうで
 まず相談

教育事務所のいじめ相談

- ・いじめ問題専門の相談機関です。
- ・学校教育に詳しい相談員がお話を聞きします。
- ・相談者が望めば、学校への働きかけも可能です。

電話相談 12月28日まで、毎日9時から24時
 夜の12時から朝の9時まで、留守番電話を設置しています。
 (佐渡は夜の5時～朝の10時)

上越いじめ相談	025-526-9378
中越いじめ相談	0258-35-3930
下越いじめ相談	025-231-8359
佐渡いじめ相談	0259-74-0022

県立教育センターのいじめ相談

- ・長期的な面接相談にも応じます。

電話相談 12月28日まで、毎日9時から24時
 悩み事相談テレホン 025-263-4737

来所相談・電話相談 12月28日まで、毎日9時から24時
 県立教育センター教育相談 025-263-9029

児童相談所のいじめ相談

- ・18歳未満の子どものあらゆる問題に関する相談機関です。
- ・児童福祉司、心理判定員、精神科医がお話を聞きします。
- ・必要に応じて、学校・家庭訪問・一時保護等も行います。

子ども・女性電話相談は、9:00～22:00
 電話・面接(予約制)相談 8:30～17:15

中央児童相談所	025-381-1111
佐渡駐在(相川合同庁舎)	0259-74-3390
長岡児童相談所	0258-35-8500
上越児童相談所	025-524-3355
新発田児童相談所	0254-26-9131
南魚沼児童相談所	025-770-2400
子ども・女性電話相談	025-382-4152